

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891500050		
法人名	有限会社 エム・エス・ティ介護倶楽部		
事業所名	高齢者グループホーム アテン中郷	ユニット名	1階
所在地	〒319-1555 茨城県北茨城市中郷町小野矢指846		
自己評価作成日	平成24年10月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0891500050-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年12月18日	評価確定日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>記憶や認知障害の為に、御自宅での一人暮らしや、御夫婦での生活に不安を感じている高齢者同士が助け合い、ふれあいながら職員と一緒に生活する家庭的な環境で、ゆったりとした自由で楽しい「あたりまえの暮らし」をサポートする事を目的とします。</p> <p>ノーマライゼーションの精神が色濃く残っている静寂な住宅街で、自治会、老人会、近隣の子供会、幼稚園、小学校等の行事に積極的に参加交流し、地域に密着し開かれたグループホームであることを目指し「職員・家族」この方針で貫きたいと思えます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>地域密着型サービス事業所の必要性を認識した代表者が、四季を感じる自然に恵まれ、なおかつ隣接する小学校の社会資源も生かすことができるという立地環境に着目して開設した事業所である。</p> <p>代表者は職員に対し、笑顔で明るく利用者に接するように常に語りかけるなど、事業所の明るい雰囲気づくりに努めている。</p> <p>職員はチームワークをもって生き生きと利用者を支援しており、車いすを使用していた利用者が示した「立ちたい」というサインを見逃さず、利用者の役割意識を重視しながら徐々に自立して歩けるようにするなど、着実に成果を上げている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践しています。	「明るく家庭的な雰囲気」や「地域や家庭の結びつきを重視」などの言葉が入った事業所独自の理念を掲げている。理念を玄関に掲示するとともに、月1回の職員会議や勉強会で唱和して共有している。職員は笑顔で明るく利用者に接するほか、地域住民から野菜を頂いたり、骨抜き魚をあげたりするなど、双方向の付き合いをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校との交流や地域の行事などに参加しています。地域から野菜を頂いてそれを調理しています。	利用者が地域の小学校の運動会や地元出身のプロ歌手を招いた歌謡ショーに参加しているほか、小学生が事業所を訪問して歌や踊りを披露したり、地域住民が野菜のお裾分けをするなど、地域と双方向の交流をしている。事業所として自治会に加入するとともに、利用者や職員は散歩の際に地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の受け入れをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、市役所職員、利用者のご家族、近隣の方々を招き会議を開くようにしています。	家族等の代表や市担当者、地域住民が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の行事予定や外部評価結果を報告しているが、会議出席者から出た「中学生の職場体験を受け入れてはどうか」などの意見を運営に反映するまでには至っていない。	事業所に対する地域の理解や支援を得るためにも、会議出席者からの意見を運営に反映させることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成20年度より、北相会（北茨城市相談員勉強会）に参加しています。	代表者は市担当者に電話や面会などでコミュニケーションを図りながら、利用者が楽しく過ごせるような事業所の取組みについて積極的に発信している。 代表者は介護職員処遇改善など介護保険制度で疑問が生じた場合や地域で支援を必要とする方がいた場合に、市担当者に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し職員会議等で指導しています。しかし、廊下は施錠しておりますが、家族の了解を得ています。	代表者は身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに数ヶ月に1回勉強会を開催し、職員が身体拘束やその弊害について理解ができるように努めている。 職員はきめ細かな見守りにより、廊下や玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 代表者は家族等との話し合いにおいて、身体拘束をしない事業所の方針を伝えるとともに、その場合のリスクやリスク低減に向けた取組みを説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市から資料をもとに職員会議等で学習しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	該当する方がいませんが、皆で勉強しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明し理解・納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞くことを第一と考え、意見箱を設置しています。	意見箱を設置するとともに、代表者や職員は家族等が利用料金支払いで事業所に来訪した際にコミュニケーションを図りながら意見や要望を出すように働きかけているが、意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。 重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を記載するまでには至っていない。	利用者や家族等は、意見や要望、不満を言い出し難いということを踏まえ、重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、無記名のアンケートの実施など、意見や要望の汲みあげに向けた積極的な取り組みが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き意見交換出来るようにしています。	代表者は職員と食事会を実施してコミュニケーションを図るとともに、月1回の職員会議で運営に関する意見を出せるよう職員に働きかけている。 代表者は職員から出た「洋風の食事やバイキング形式の食事を提供してはどうか」という意見を取り入れ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	暑気払い等を開いたりして親睦をはかっています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育リストで項目ごとにチェックしながら、職員の力量を高めるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	お互いに意見を交換し、サービスの向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するにあたって、安心できるように本人に十分な説明をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたって、安心できるように家族に十分な説明をしています。また本人と一緒に来ていただいて見学してもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活の状況、ADL状況、実態調査記録を取りながら、サービスの向上に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯たたみなど生活リハビリを兼ねながらお手伝いをしてもらっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方をイベント時にお招きして参加していただき、一緒の時間を過ごしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に積極的に来ていただいたり、支払い時は現金で精算するようにして、月に一度はご本人と面会できるようにしています。	職員は利用者の知人や友人に来訪を働きかけるとともに、親戚への電話の取り次ぎや手紙の代筆などを支援している。アセスメントや日々の支援の中で把握した利用者の馴染みの人や場所について、記録として残すまでには至っていない。	利用者との係わりの中で把握した利用者のこれまでの人間関係や社会との関係に関する記録が、「思いや意向の把握」と同様に利用者一人ひとりの個別支援に向けた基礎資料となることを再認識し、把握した結果を記録として残し、全職員で共有することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場所（リビング）で雑談をしたり、テレビを観たりレクリエーション（カラオケ等）をしたりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ行ってしまった人へお見舞いなどを行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントして本人のニーズに合わせて計画しています。	職員はアセスメントや日々の生活の中で、「立って歩きたい」などの利用者の思いや意向を把握しているが、明確な記録として残し、職員で共有するまでには至っていない。 意思疎通が困難な利用者については、職員で利用者の思いや意向等を話し合いながら把握に努めている。	利用者や家族等の思いや意向の把握が、ケアの出発点であることを再認識し、把握した思いや意向を記録として残し、全職員で共有しながら介護計画につなげていくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の実調して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり把握して記録をつけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	皆で話し合いながら計画を立てています。	計画作成担当者が策定した介護計画の原案を基に、介護支援専門員や代表者、職員が参加するカンファレンスにおいて、医療関係者や家族等からの情報も踏まえながら利用者一人ひとりの役割意識を重視した介護計画を作成している。 計画作成担当者は3ヶ月毎のモニタリングや6ヶ月毎の評価に基づき、介護計画を定期的に見直している。 利用者の状態に変化があった場合には、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり把握して記録をつけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用共同生活介護を行っています。家族に代わって病院の付添、薬とりなどを代行しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ADL状況を考えると参加がなかなか難しいのですが、地域の空き缶拾いや、側溝の清掃など工夫しながら参加しようと心がけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、主治医と連携を取りながら対応しています。	職員は入居時に利用者のかかりつけ医を把握するとともに、利用者や家族等の要望にそってかかりつけ医や専門医への受診に付き添うなどの支援をしている。 家族等が付き添う場合には、バイタルサインなどを記したメモを家族等に渡すとともに、家族等から聞き取った受診結果を申し送りノートや業務日誌に記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の正看がいますので、相談をしながら適切な受診や看護をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、医療機関と管理者または看護師が連携を取りながら対応をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアルを作成し、看取りも考えて家族や職員と話し合いをしています。ターミナルケアも考えています。	代表者は「終末期の介護について心を込めて行っています」という言葉が入った「看取り介護に関する方針」を策定しているが、体制が整っていないという理由から基本的には看取り介護はしない方針である。 看取り介護をしないという方針を利用者や家族等に説明して同意を得るまでには至っていない。	事業所の方針と利用者や家族等の思いがずれたまま重度化や終末期を迎えることのないよう、事業所の実態に即した方針を作成し、入居時に利用者や家族等に説明して同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、非常事態に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防の指導を受けながら避難訓練を実施しています。	防災担当の職員を決め、年2回消防署立会いのもと夜間想定も含めた避難訓練や消防設備点検を実施しているが、訓練で得られた課題などを記録として残すまでには至っていない。 避難訓練に併せて実施した消火訓練に、地域住民1名が参加しているが、災害時における地域との協力体制を構築するまでには至っていない。 災害に備えて食料品や飲料水、備品などを備蓄している。	避難訓練を通して得られた避難完了時間や避難誘導體制などに関する課題を記録として残すとともに、運営推進会議などを通して地域との協力体制を早期に構築することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けは皆の前では言わない事や、部屋で着替えをするなどの対応をしています。	職員は排泄誘導にあたっては耳元で話しかけるとともに、失禁した際には居室で着替えをするように配慮している。利用者の人格の尊重やプライバシーの確保に関する研修を実施するまでには至っていない。個人情報に関するファイルは、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	個人情報保護に関する外部研修への参加や内部研修の実施が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意見を尊重し、物事を押し付けないように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スーパーや散歩など一緒に行ったりします。その人のペースに合わせて支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えています。定期的に髪をカットしています。各個人に合わせて爪のお手入れをしています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事を一緒にしています。イベント時には、手作りのお弁当やおやつを作っています。	交代で調理を担当する職員が、利用者の希望を取り入れた献立を作成している。 利用者は職員の支援を得ながら盛り付けや配膳、下膳などを行っている。 行事や誕生日には利用者の希望にそった行事食としているほか、外食に出かけたりおやつ作りをするなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病歴や様子を見ながら、看護師と相談して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や寝る前に必ず口腔ケアをしています。各個人に合わせて口腔外科などを受診しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間をみながら声掛けをし、トイレへ誘導しています。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間を決めてトイレ誘導をすることにより、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員は利用者の排泄状況を観察しながら、パッドの種類を使い分けるなどの工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い野菜やヨーグルトを摂取するようにしたり、レクで体操をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯はある程度決定していますが、順番を変更したり、希望やお伺いをたててから行動しています。	入浴は隔日の午前中を基本としているが、希望がある場合にはいつでも入浴ができるよう努めている。 浴室内は暖房完備となっているほか、トイレや手すりの設置など、快適に入浴ができるよう配慮している。 職員は菖蒲湯や柚子湯などを季節に応じて取り入れ、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者毎に薬が分かりやすいように配置し、看護師の指示に従って服薬しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味などそれぞれの方に合わせて支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の中や辺りを散歩しています。ベンチに座って犬と遊んだり花見に行ったりします。	職員は天気の良い日は利用者が事業所周辺を散歩したり、スーパーで買い物ができるように同行している。 職員は年2回から3回ドライブを兼ねた外食行事を実施しており、歩行困難な利用者も含めて外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けたい時に掛けられる様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保てるように清掃し、リビングに季節の花を飾るなど心がけています。	広々として明るい小上がりの和室を備えた居間兼食堂にソファを配置するほか、鉢植えの花を置くなど、家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように工夫している。 共用空間に加湿空気清浄器を設置するなど、快適な温湿度環境を保てるよう配慮している。 共用空間からは季節毎に変化する田園風景を臨むことができ、利用者が自然を感じながら過ごせる環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで雑談したり、畳の部屋でくつろげるようにしてあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みやレイアウトも自由にしてあります。	職員は利用者や家族等に使い慣れた物品の持ち込みや居室のレイアウトが自由にできることを伝え、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。 利用者は居室に使い慣れたテレビや収納ケース、机、椅子を持ち込んでいるほか、家族等の写真やぬいぐるみ、趣味の雑誌を置くなど、自分に合った居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付けたり、自分の部屋が分かりやすいように、一人ひとりの居室のカーテンの色を変えるよう工夫しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム アテン中郷

作成日 平成25年3月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において会議出席者から出た意見が反映されていない	会議出席者から出た意見が反映されるようにする	会議で出された意見や希望を第2木曜日にカンファレンスを行い反映させるようにする	2ヶ月
2	35	災害時における地域との協力体制を構築できていない	地域住民との交流を行い連携体制をとる	地域活動に積極的に参加るとともに推進会議に出席してもらい連携関係を保つようにする	6ヶ月
3	35	防火訓練において得られた課題など記録として残っていない	課題、問題点は記録に残しスムーズに避難できるように努める	防災担当者を決定し課題、問題点についてカンファレンスを行い改善策を考え次の訓練につなげていくようにする	2ヶ月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。